

◆ 今週のコメント

- ・ 侵襲性肺炎球菌感染症の報告が1例(男性, 10歳未満)あります。平成25年4月1日から五類感染症(全数把握感染症)に追加されて以降, 累積報告数は12例となっています。
- ・ 麻疹(検査診断例)の報告が2例(男性(10歳代), 女性(30歳代))(母子)あります。推定感染地域は共に国外(スリランカ)で, 遺伝子型も共にB3型です。
日本における平成18年～平成20年のアウトブレイクの主たる原因となった常在型ウイルスとされているD5型の麻疹ウイルスは, 平成22年5月を最後に検出されていません。
平成25年4月に, 「麻疹に関する特定感染症予防指針」が改正され, 日本が麻疹排除状態になったことを証明するためには, 遺伝子型別検査によって国内に定着した土着株の存在を否定することが重要となります。詳細は, 下記ホームページをご覧ください。
○国立感染症研究所感染症情報センターホームページ「麻疹対策・ガイドラインなど」
<http://www.nih.go.jp/niid/ja/guidelines.html>
- ・ 感染性胃腸炎の定点当たり報告数は11.56(474例)で, 前週 9.54(391例)から増加しています。第46週(11月11日～11月17日)以降, 6週連続で増加しており, 過去5年平均値を上回っています。全国でも同様に増加し, 過去5年平均値を大きく上回っています。年齢階級別では, 1歳が82例(17.3%)と最も多く, 次いで3歳 55例(11.6%), 2歳 53例(11.2%)となっています。
- ・ インフルエンザの定点当たり報告数は0.69(47例)となっており, 今シーズン初めて市内全区から報告があります。今シーズンのインフルエンザ発生状況を下記に掲載しています。
○京都市感染症情報センターホームページ「インフルエンザ発生状況」
<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000071285.html>

◆ 今週のトピックス: <咽頭結膜熱>

咽頭結膜熱の定点当たり報告数は1.71(70例)で, 前週 1.20(49例)に比べ約1.4倍増加しています。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数把握の感染症

- ・ 五類: 侵襲性肺炎球菌感染症 1例【1月以降の累積報告数 12例】
- ・ 五類: 麻疹(検査診断例) 2例【1月以降の累積報告数 3例】

定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点68, 小児科定点41, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	0.69	47
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	11.56	474
	② A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.88	77
	③ 咽頭結膜熱	1.71	70
	④ 水痘	0.98	40
	⑤ RSウイルス感染症	0.71	29
眼科	流行性角結膜炎	1.20	12

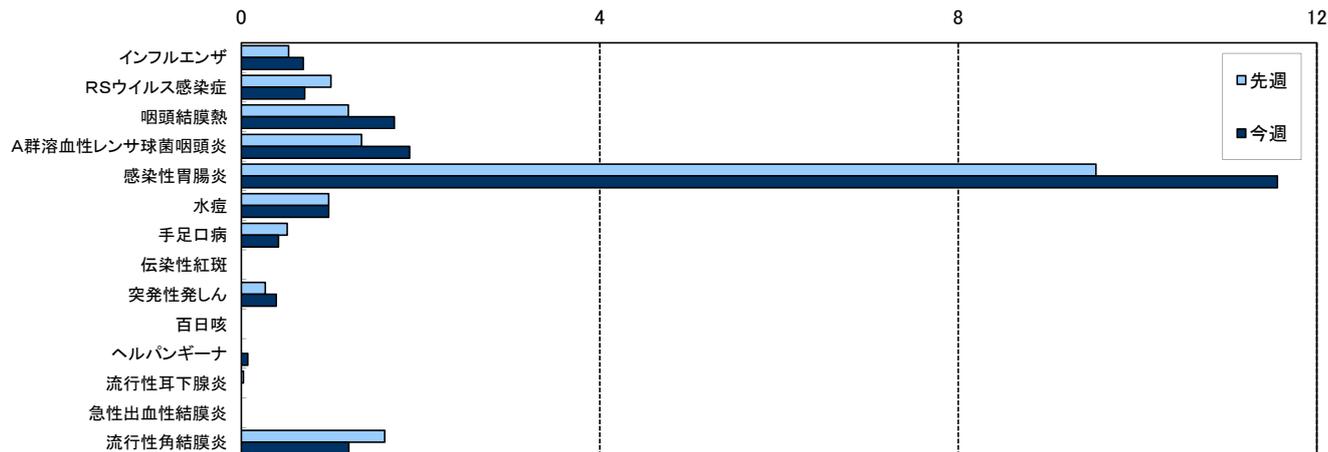
【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <咽頭結膜熱>

(注) 京都市のデータは, 平成25年12月26日現在の報告数で, 全国の還元データと若干異なる場合があります。
また, 本情報での患者数は, 届出医療機関所在地での集計で, 患者の住所を示すものではありません。

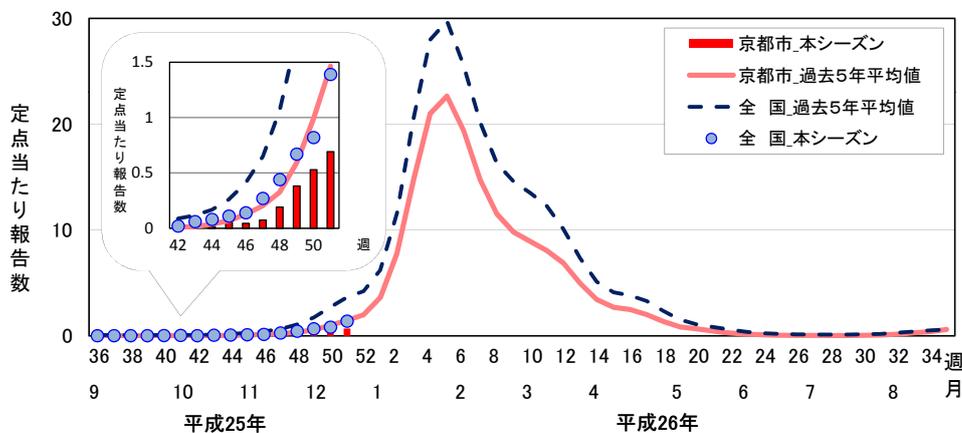
◆ 発生状況の概況グラフ

1 今週(第51週)と先週(第50週)の定点当たり報告数の比較



2 インフルエンザの推移

週	報告数(例)
第47週	5
第48週	13
第49週	26
第50週	36
第51週	47
累積報告数(第36週以降)	141

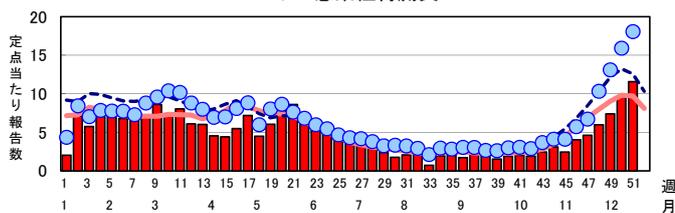


※平成21年/22年シーズンは、例年と流行傾向が大きく異なるため、過去5年平均値の算出には使用していません。

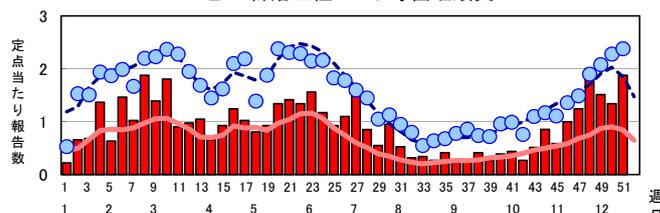
3 主な感染症の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>

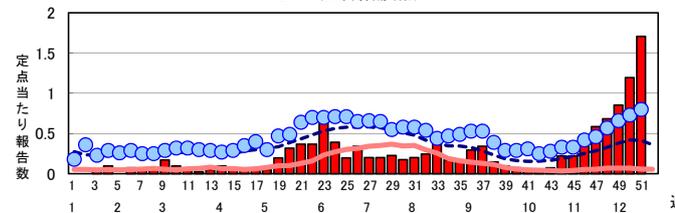
1 感染性胃腸炎



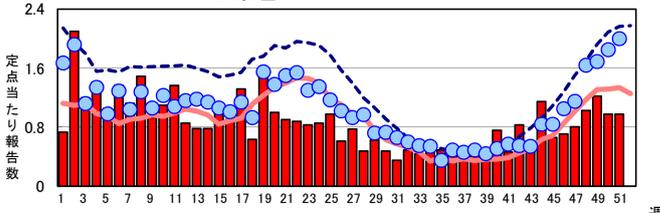
2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



3 咽頭結膜熱

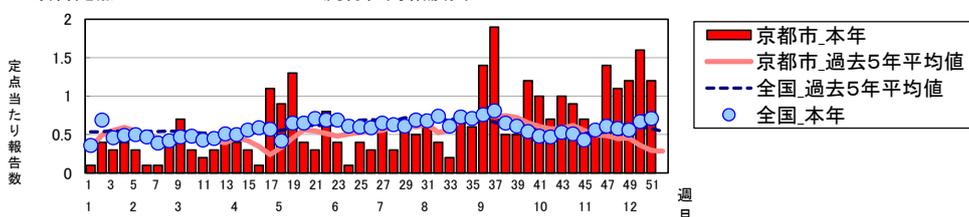


4 水痘



<眼科定点>

流行性角結膜炎

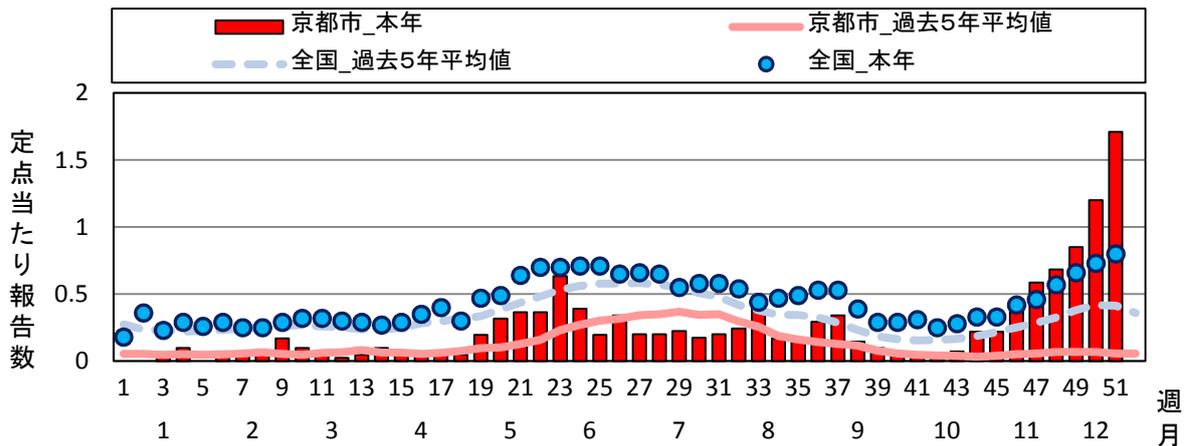


第51週(12月16日～12月22日)トピックス: <咽頭結膜熱>

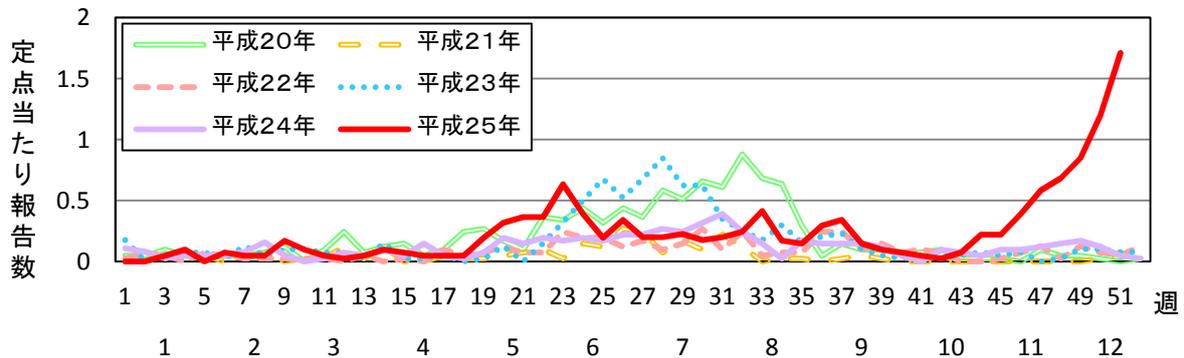
咽頭結膜熱の定点当たり報告数は1.71(70例)で、前週 1.20(49例)に比べ約1.4倍増加しています。第46週(11月11日～11月17日)以降、6週連続で増加しています。過去5年平均値の約30倍となっており、本年で最も多い報告数となっています。全国でも同様に最も多い報告数となっています。本年6月に流行のピークを迎え、9～10月にかけていったん落ち着きましたが、11月以降増加に転じています。今後の動向にご注意ください。

年齢階級別では、4歳及び5歳が各14例(20.0%)と最も多く、次いで1歳及び2歳 各9例(12.9%)となっています。

本市及び全国の定点当たり報告数の推移



本市の定点当たり報告数の年推移



年齢階級別割合の推移

